

作り手から

## 紙面を彩る「インパクト」重視

県内の広告賞を数多く受賞してきた松山市のデザイン制作会社「シンプル」の正岡昇代表取締役は、新聞を「一番信頼性が高い媒体」と位置付ける。「記者や営業などさまざまな人が関わり地域に根付いている」からと説き、その紙面を彩る広告の制作で最も大切にしているのが「インパクト」だ。

ニュースを読むために新聞を広げる読者に、強いメッセージや目を引くビジュアルを考えて形にすることを心掛ける。同社では「ワンビジュアル・ワンメッセージ」を掲げ、盛り込む情報を絞り込み、より読み手に伝わることを意識する。

デザイン制作会社 シンプル(松山市)  
正岡昇代表取締役



広告主からは、掲載理由や求める効果、訴求する相手を詳しく聞き取り、異なる方向性から着想した複数案を提示。書体やレイアウトを整え、磨きをかける。文字の多い紙面との兼ね合いや、記事とのタイアップ効果も意識するという。

瀬戸内しまなみ海道開通10周年に合わせて愛媛新聞社が2009年に企画したシリーズ広告を担当し、青々とした海の印象を表現しようと文字色も含めて全面ブルーの紙面に仕上げ

た。各島を巡って特産物や魅力を取材し「(島々の人たちに)紙面に出ることを楽しみにしてもらったのも思い出の一つ」と振り返る。

「地域のニュースがあり、投稿欄で読者も参加し、地域愛が感じられる」と地方紙の良さを評価する。「時代を追いすぎて本来の良さを失うことなく、地域のためになくてはならない存在であってほしい」と愛媛新聞への要望も付け加えた。